

地域日本語教育 スタートアップ プログラム (熊本市)

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団(KIF)

文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育スタートアッププログラム

- 日本語教室が実施されていない地域に日本語教室を開設するための事業
- 年間200万円を上限にして、日本語教室開設を支援（コーディネーター経費）
- 熊本の場合：
- 熊本地震で閉鎖となった東区建軍教室を再開のため本事業を活用
- 2016年8月準備～10月正式キックオフ



被災する前の健軍教室の様子

キックオフ・ミーティング

- 10月11日
- @熊本県立大学
- 実施主体 KIF
- コーディネーター
- アドバイザー
- KEQP



目的 多文化共生 社会の拠点 となる 日本語教室

- 災害が起きても、外国人を含め誰一人置き去りにしない地域づくりの拠点となる日本語教室を、熊本地震で被災して日本語教室空白地となった熊本市東区で再開する。
- 前述のような日本語教室を多文化共生社会の拠点として位置づけ、現在、日本語教室が開催されていない熊本市西区および南区で開設し、熊本市全域で災害に強い地域社会の構築をめざす。

01

初級日本語集中
講座 @ 国際
交流会館

02

くらしのにほんごク
ラブ @ 国際交
流会館

03

地域日本語 in
武蔵丘(北区)、健
軍(東区)

04

2017年度 東区
くらしのにほんごク
ラブ

05

2018年度 南区、
西区 くらしのにほ
んごクラブ

日本語教室 by KIF

・日本語支援事業



初級日本語集中講座

くらしのにほんごくらぶ

地域日本語武蔵丘、建軍

日本語テキスト開発

多文化共生社会の拠点。。



初級集
中講座

くらしの
にほんご

テキスト開発、調査

初級日本語 集中講座

- 5日間連続の日本語教室
- 専門の日本語教師が日本語の骨組みを教える。
- 対象: 日本に来てすぐ人、日本語を学習した経験がない人
- 暮らしのにほんごクラブや地域日本語へつなげる。



日本語教育スタート
アップ@熊本で
目指す日本語教室
は..

▶地震時の地域日本語教室の役割 —武蔵ヶ丘教室

16日の本震後から翌日にかけて、学習グループごとに連絡を取り合い、安否確認や情報交換を行っており、国際交流会館の事務局が連絡した際には参加者ほとんどの安否確認ができた。(もともと



ボランティアと学習者のやりとり

地震前から作っていた学習者だけのLINEグループで、学習者同士でも安否確認や情報交換を行っていた。)その際、LINEグループでは、自分の家の被害状況の報告から、営業しているスーパーや給水所の場所、ガソリンスタンドや交通など様々な情報交換があった。LINEで共有した情報は、日本語能力の高い学習者が手分けして多言語に翻訳し、日本語が分からない参加者も情報が分かるように協力していた。自宅が近い学習者と日本語ボランティア同士は、日頃から地域のイベントに参加するなどして積極的に交流しており、地震で被災した後もLINEで情報交換を頻繁に行い、励ましあって過ごされていた。

武蔵ヶ丘教室は、武蔵ヶ丘周辺に在住している日本人と外国人が参加しているため、地震後事務局が連絡をとるより早く相互で安否確認や情報交換を行っていた。日頃より同じ地域に住む住人として関係が築けていたため、日本人と外国人が協力し合いながら緊急時を乗り越えることができ、改めて顔の見える関係の重要性を感じた。

村上百合香さん(当事業団)



多文化共生 社会の拠点 となる日本語教室

- 同じ地域に住み外国人・日本人住民が共に集い、やさしい日本語で交流できる場
- 交流のテーマは、子育て、地域ルール、お祭りや清掃などの行事、お買い物など暮らしに密着したもの
- 学習したい外国人もできる範囲で対応
- 教室を飛び出して、スーパーだったり、地域の運動会やお祭りだったり、暮らしの現場も教室
- 先生と生徒の関係というより、同じ住民としての活動

6名のコー ディネーター チームで

- 地域調査、日本語交流サポーターの要請：
道本ゆう子さん、泉千草さん、
村上百合香さん
- 教材（オリエンテーションビデオ）
作成、指導：
定永祐子さん
- 教材開発の指導：
馬場良二さん
- 調査データの分析：
高橋進之介さん

2016年度 の活動

- 熊本県内の日本語教室調査
- 熊本県外の日本語教室調査
岡山総社市 京都亀岡市
- 調査分析
- 教材(オリエンテーションビデオ)の作成
- 教材の作成(熊本県立大学)
- 人材養成プログラムの検討
- 日本語教室の内容、会場の検討

日本語交流サポーター募集

- 200人に198人は日本人の熊本市..
日本人側から外国人に近づき交流をする。
- 外国人を見ると外国語を話さないといけない.. ⇨ 日本語で声をかけてみよう.. 日本語で交流しよう..
- どんな日本語 .. やさしい日本語 ..
短い文章、簡単な文法、理解できる単語へ言い換える..
- ストック情報の違い..
熊本地震を経験したことがない
外国人は避難所を知らない。
日本と海外のコミュニティの違い..

オリエン テーション ↓養成講座

- 募集 20名程度
- (多数の場合、東区に居住されている方を優先します)
- 応募資格: 市内に住む18歳以上(平成29年4月1日現在)で、外国人の方と日本語でおしゃべり交流する日本語教室に参加可能な方(東区で6月より週1回開催予定)

※以下のオリエンテーションのどちらかに参加できる方

- 日時

4月2日(日)午前10:00～(国際交流会館)

4月9日(日)午前10:00～(熊本県立大学)

各回とも2時間

- 広報は、3月号の熊本市政だよりに掲載

養成講座 (計画中)

- 3回程度(週1回、5月の連休明けから開催)
- 内容:
 - 1回目 外国語としての日本語
 - 2回目 やさしい日本語、教材紹介
 - 3回目 実践練習
- ⇒ 6月より東区で開催予定の東区くらしのにほんごクラブで活動していただく。
- オリエンテーション・養成講座を年に数回行う。

日本教室の 開設について

- まずは、ボランティアによるペア・グループ学習型の教室でスタートする。
- コーディネーターが交代で教室コーディネーターとして参加、日本語交流サポーターの方の疑問に答える。
- 今後経過の中で、コーディネーターが教室形式で教え、日本語交流サポーターが補助、その後のおしゃべり交流への流れを試してみることも可能。「にほんごこれだけ」は教室用で購入可能(4月以降)学習者には必要に応じて個人で購入してもらう。
- KIFは、地域コーディネーターとしての役割を担う。6月からスタートしたい。(場所:東部公民館)
- 名称 東区くらしのにほんごクラブ

地域防災力 外国人と築く



熊本市国際交流会館で現在開かれている日本語教室。6月に新設する教室では、地域住民と外国人が交流し、災害時などに助け合える関係の構築を目指す＝熊本市中央区

「言葉の壁」解消 6月から日本語教室

「支え合える関係に」

熊本市

熊本地震の際に言葉が壁となって外国人が孤立した事態を受け、熊本市国際交流振興事業団は6月から、外国人と地域住民の交流と多文化共生の拠点となる日本語教室を開設する。災害弱者になりがちな外国人が地域に溶け込むことで支え合える関係性を築き、地域の防災力を高める。

県内の日本語教室は公設・

民営合わせて十数カ所あるが、コミュニティづくりの主眼を置く教室は初めて。「サポーター」となる地域住民が語学指導の補助にとどまらず、外国人と日常的に交流して信頼関係を築く。

教室は6月から月2回、東区の東部公民館で開催。サポーターは公民館近くの住民を想定し、説明会を4月上旬、養成講座を5月に開く。初年

度の取り組みを検証し、2018年度までに、現在日本語教室がない南区と西区にも開設する方針。

バンクラデッシュ出身で崇城大大学院2年のワリウル・イスラムさん(28)は熊本地震の前震時、市内のアパートで被災し近くの公園に避難。「周りは日本語ばかりで何も分からなかった。水も食料もなく不安でたまらなかった」と振り返る。

来日2年で日本語はほとんど話せず、非常時に必要だと覚えたのは「助けてください」だけ。「近所付き合いはなくて頼る人もいなかった」と話し、今回の動きを歓迎する。

人口統計によると16年3月現在、熊本市在住外国人は約4500人。地震時は「給水」など普段使わない言葉が外国人の障壁となったことから、サポーターは分かりやすい言葉遣いを心掛け、万一の際に正確な情報伝達ができるよう養成講座などを通じて徹底する。

事業団の八木浩光事務局長は「おしゃべりなどを通してコミュニケーションを深め、外国人も地域の一員として助け合える関係を作りたい」と話している。(福井一基)